

平成21年度 科学研究費補助金（特別推進研究）
研究進捗評価 現地調査報告書

研究課題名	認知発達の霊長類的基盤	研究代表者名 (所属・職)	松沢 哲郎 (京都大学・教授)
-------	-------------	------------------	--------------------

評価コメント（研究代表者へ開示）

本研究課題は、チンパンジーの認知機能における発達の全体像を明らかにするため、思春期から青年期にあたる時期の認知発達を、多面的な課題や場面で研究しようとするものであり、最終的にはこの比較研究から人間を特徴づける認知機能の発達がどのような特徴を持っているかを知ろうとするものである。

研究対象となる認知機能が反映される課題について、これまでのチンパンジー研究では本研究チーム以外に世界でも行われなかった、数多くの特色あるものが準備されている。とくに、本研究で青年期以降の個体との対面検査を可能にしているのは、世界に類をみない、研究者と対象のチンパンジーとの長い時間をかけた関係づくりであることが確認できた。

現地調査の結果、予定された3種の実験場面での研究、「社会的場面」、「対面検査場面」、「個体学習場面」の全てについて着手されており、研究の進展がみられる。とくに、チンパンジーの認知発達上の変化では、記憶機能と象徴機能のトレードオフの可能性がみられることを示唆する成果は、人間の認知機能の進化を考える上でも、興味深い結果になっている。

本研究課題の成果公表については、すでに質の高い国際ジャーナルに多数の論文として掲載されるなど積極的に行われている。

また、多様なコンピュータ・プログラミングについても研究者が自ら行うなど効率的で評価できる。